

愛和病院

埼玉県川越市にある愛和病院は2010年の分娩数が2700人と県内最多を誇る。病床数は50床で、国内でも有数の産科医院だ。

光る現場力

少子高齢化や晩婚化が進むなか、産後の母子双方の医療や精神面のケアに力を入れる。グループで院内のサービスなどを企画するアイフメディカルサービス(同)の藤田博子社長は「出産や子育てのストレスの軽減に気を配ることで支持を得て

母子の産後ケアに重点

いる」と実績の背景を説明する。

天井から太陽光が注ぐ落ち着いた雰囲気の中、同院の健診センター。子どもたちがはしゃぎ回るなか、知り合いの母親や助産師、社会福祉士と話し合う母親の姿が目立つ。同院は通常よりもきめ細かく産後健診を実施



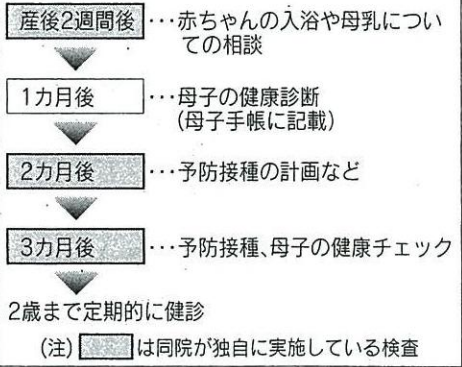
健診センターの待合室では母子だけでなく父親の姿もみえる

精神面も配慮、支持つかむ

している。なかでも2週間後の健診は出産プランに含めており、追加費用はかからない。9割以上の母親が受診する。

「母親は赤ちゃんを産んだ後1週間もたないうち、だれ1週間もたないうち、帰宅する。その後1カ月も医師に相談できないと、センターには小児科や皮膚科、形成外科を設置して、母子双方の健康相談を受け付ける。子どもの健康相談を受け付ける。子どもを育める環境作りを心掛け

愛和病院の産後健診の流れ



母親は帝王切開の傷の治療や美容相談も可能だ。同院が産後の母親の精神面の安定などのために着目するのが母親同士のコミュニケーション。産後の病室で同じ部屋となった母親同士、自然におしゃべりできる環境作りを心がける

木目調の壁や絵画などを取り入れ、ホテルや自宅で過ごすような雰囲気を出している。インターネットやドリンクサービスを用意したり、出産した母親全員が受けられるアロママッサージなども提供する。

「お産にともなう負担を最小にする」として少子化の解消にも一役を担いたい」と力を込める。

内田さんは「待ち時間などに同じ悩みを持つ母親同士で話し合うのが最大の不安解消策になる」と強調。センターにいる保育士に育児などの相談も可能だ。同院の出産費用は3人部屋使用で50万円から一般的なケースに比べてやや高い。「医師でも出産に不安を感じるので充実した産後ケアが必要」と感じ、1985年にアイフメディカルサービス